

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第8号 畜産

発行日 平成24年10月25日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

## ◆ 子牛の休息場所では、乾燥した敷料、保温と加温、換気に注意しましょう。

### 子牛の飼養管理

子牛は、被毛や皮下脂肪が少ないために、寒さの影響を強く受けます。子牛の最適気温は 13~25℃、生産環境限界温度は 5℃となっています。寒い季節、子牛は体温を維持するのに多くのエネルギーを消費するため、発育や免疫力が低下しやすく、また下痢や肺炎がまん延しやすいので、防寒対策を行います。

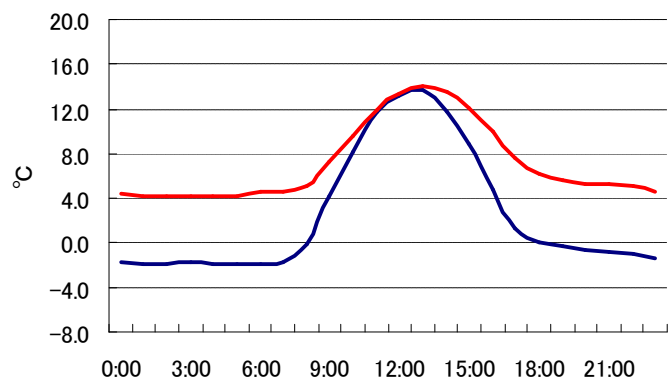
#### 1 体熱の確保

- (1) 体が濡れた状態で風に当たると、気化熱で体熱が著しく奪われます。休息場所で、すき間風が子牛に当たらないようにすき間を板やシートで塞ぎます。
- (2) 休息場所の敷料をこまめに交換する、カーフハッチ位置の調整(風がハッチ後ろから当たるよう向きを変える、地面より高く設置する)により雨水の吹き込みと流れ込みを防ぐなど、床が乾燥した状態を保ちます。また、コンクリートなど冷たい床では、休息場所に敷料を厚めに敷き、断熱により体熱の損失を緩和します。
- (3) カーフジャケットの着用やカーボンヒータなど加温器の活用も効果的です。ビニールハウスのほ乳ロボット施設において、カーフハッチとカーボンヒータを用いた事例では、厳寒期の夜温は約6度高く推移しました。



カーフハッチ内にカーボンヒータを設置した事例(カーボンヒータがいたずらされないよう、カーフハッチを高く加工)

ほ乳ロボット内の1日の気温の推移(12/21~1/17)



— カーフハッチ外の休息場所 — カーフハッチ内(カーボンヒータ設置)



コンパネですき間風を防ぎ、カーボンヒータを設置した事例

## 2 換気

牛舎の中で子牛を飼養する場合、換気も大切です。保温のため牛舎を密閉するとアンモニアがこもり、また湿度が高くなります。このような環境では、病原体が増殖しやすく、肺炎や下痢が多発します。牛舎に入った時、目がチカチカするような場合は、危険信号です。日中に、子牛の体に風が直接当たらないように、入り口や窓を開放したり、換気扇などで換気を行います。

## 3 エネルギーの補給

- (1) 寒冷時は子牛のエネルギー要求量が増加します。特に出生から3週齢までの子牛で増加します。代用乳は、脂肪含量の高いものを用いる、濃度を可能な範囲で濃くする、給与回数を増やし給与量を増加するなどエネルギーを確保できます。
- (2) 外気が寒いので、給与時の温度が39～40℃となるように、お湯の温度をやや高めにする、ほ乳ロボットではミキサの保温温度を少し上げたり、飲み残り排出時間を短めに設定します。
- (3) スタータ摂取のためには、飲水量の確保も必要です。水飲みバケツの場合、ほ乳後20～30分位したら、ぬるま湯を与えます。ほ乳ロボットなどの集団飼育では、水槽の凍結防止を行います。

農作物技術情報の24年度定期発行は今号で終了となります。  
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。  
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。  
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間**  
**農作業 笑顔の豊作 無事故から**

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。